

実践団体情報

記入日	西暦 2022 年 1 月 11 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	倉敷市教育委員会
代表者名	教育長 井上 正義
プラン全体のタイトル	「わがこと意識」をもつための倉敷型防災教育 ～中学生が家庭や地域の力となることを目指して～
電話番号	086-426-3835
メールアドレス	schhlt@city.kurashiki.okayama.jp
実践団体の説明	<p>本市では平成 30 年 7 月の豪雨災害によって被災した経験を踏まえ、子どもたちが災害に対して「わがこと意識」をもち、防災への実践力を身に付けるため、防災教育のカリキュラムを作成し、令和 2 年度から市立小学校 3・5 年生で授業としての防災教育を始めている。</p> <p>そこで、小学校での学習だけで終わることのないよう防災意識を継続・向上させていくために、市立中学校 2 年生で授業としての防災教育を新たに始めようと考えている。</p>
所属メンバー	担当：倉敷市教育委員会 保健体育課 指導主任 山下 洋平
活動地域	倉敷市
活動開始時期・結成時期	2020 年
過去の活動履歴・受賞歴	<p>2020 年 防災教育モデル授業研修会 (小学校第 5 学年) 兼「学校における防災教育による防災に対する理解促進のための取組検討」(内閣府)</p> <p>2020 年 防災教育モデル授業研修会 (小学校第 3 学年)</p>

プラン全体の概要	<p>① 「知識」「体験活動」「発信」等、様々な内容・活動を組み込んだカリキュラム案の作成。</p> <p>② モデル校での授業実践。</p> <p>(「自助・共助」の学習, 被災地を巡る現地学習会, 被災者による講演会, 防災食体験活動)</p>
----------	--

	<p>③ モデル校での実践を踏まえたカリキュラムの再構築。</p>
--	-----------------------------------

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	カリキュラム立案 年間計画立案	関係機関との打ち合わせ モデル校との打ち合わせ	カリキュラム案作成
5月	防災学習立案①	指導案・教材・資料作成	
6月	防災学習立案②	モデル校との打ち合わせ	モデル校での防災学習①②
7月		指導案・教材・資料作成	防災学習指導案修正・検討
8月			防災学習指導案修正・検討
9月	防災体験活動立案①	指導案・教材・資料作成	防災体験活動案作成・検討
10月	防災体験活動立案②	指導案・教材・資料作成 モデル校・関係機関との打ち合わせ	防災体験活動案作成・検討
11月	防災体験活動立案③	指導案・教材・資料作成 モデル校との打ち合わせ	モデル校での防災体験活動①② 防災アンケート実施
12月	防災学習立案③	指導案・教材・資料作成 モデル校との打ち合わせ	モデル校での防災体験活動③ 防災アンケート実施
1月			モデル校での防災学習③
2月	カリキュラム再立案		活動報告会 カリキュラム再構築
3月			カリキュラム再構築

プラン全体の反省点・課題・感想	<p>実践を重ねる毎に、生徒が新たな知識を獲得・活用し、防災について真剣に向き合う姿が見られた。授業としての時間を確保し学ぶことは着実に生徒の力となり、「わがこと意識」の向上につながると感じ、学びの継続の必要性を改めて感じた。その一方で、受け身的な学習が中心となってしまう、生徒自身が考えたり、行動したりする自主的・主体的な学習がなかなかできなかった。また、新型コロナウ</p>
-----------------	---

	<p>イルスの影響でモデル校での実践が予定通り進まず、学習のまとめや生徒からの家庭や地域への発信・連携の取組が期間内にできなかった。</p>
今後の活動予定	<p>モデル校での学習のまとめ、家庭や地域への発信・連携の取組を行っていく。それを踏まえ、小学校からの系統性・継続性を考慮しながら、中学校の防災教育カリキュラムをよりよいものに再構築し、全市立中学校での防災教育を新たに始めていく。</p>

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2022 年 1 月 11 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	倉敷市教育委員会
実践番号	1
タイトル	「倉敷型防災教育」カリキュラム案作成
実践担当者のお名前	山下 洋平

実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	数週間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 4 月 1 日～西暦 2021 年 4 月 22 日
実践の所要時間	数週間
実践の運営側で動いた人の人数	5 人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約 300 人
実践を行った都道府県と市区町村	岡山県倉敷市
実践を行った具体的な場所	倉敷市教育委員会
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	倉敷市防災危機管理室職員 平成 30 年 7 月豪雨災害等の過去の災害の資料

達成目標	中学生という発達段階を考慮し、生徒が自主的・主体的に活動できるような内容や、家庭や地域をつなぐことができるよう「知識」「体験活動」「発信」等、様々な内容・活動を組み込んだカリキュラム案を作成し、防災に関する実践力を高めるとともに防災意識の継続・向上を図る。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

- 1 中学生の発達段階や系統性等を踏まえカリキュラム案を作成する。
- 2 カリキュラム案をもとに、必要な教材・資料を作成し、詳細な学習指導案を作成する。
- 3 関係機関に相談し、内容の修正・検討を行う。

テーマ 時数	主な学習活動	指導上の留意点	時間
災害と向き合い、 家庭や地域の力となる （60分＋10分）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の災害リスクを知り、災害時に自ら命を守るための適切な避難行動について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の災害を振り返る。（※映像資料や写真、新聞記事の活用等、実態に合わせて） ・ ハザードマップ等を用いて、地域の災害リスクについて考える。 ・ 自ら命を守るための方法を学び、適切な避難行動について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の災害を振り返り、地域の災害リスクに目を向けさせることで、災害を自分事として捉え、防災への意識を高めることができるようにする。 	1
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「自助」の視点で、家庭や地域のために自分たちができる活動を考える。 ・ 「自助」「共助」の視点を確認する。 ・ 災害発生前、災害発生時、災害発生後に自分たちができる活動を考える。 ・ 活動が決定したら、活動の進め方について計画を立てる。 <p>（※自分たちができる活動を考える前に、倉敷市防災危機管理課の出席講座や被災者による語り部の会、講演会等を設定し、活動に対する意欲を高めてもよい）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の災害に備えて、防災・減災の視点で考えさせることで、「自助」だけでなく、「共助」の視点の重要性に気付かせ、自分のことだけでなく家庭や地域のためにできる活動にも意識が向くようにする。 ・ 取り組む活動については、生徒の自主的・主体的な姿勢を大切にしながら、実現可能なものかどうか内容を吟味し、設定するようにする。 	1
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「共助」の視点で考えた、自分たちができる活動を計画に沿って実践する。 （※活動形態は、学校の実態に応じて設定） ・ 地域防災安全フィールドワーク ・ 防災安全マップ作成 ・ ポスターやチラシ等の掲示物での地域や家庭への発信 ・ オンライン教材の開発・発信 ・ 出前授業・出席講座 ・ 合同避難訓練・地域防災訓練への参加 ・ 体験活動（避難所運営・炊き出し等） ・ 関係機関や団体、自主防災組織との連携 ・ 要配慮者への支援活動 ・ SDGsと関連付けた活動 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭や地域への発信・つながりを意識させ、自分たちの行動が家庭や地域の力になることに気付かせることで、自主的・主体的に活動に取り組むことができるようにする。 ・ 学校だけでは難しい活動については、各関係機関や専門機関等と協力・連携しながら進めていくようにする。 	2
<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動報告会を行い、学習のまとめをする。 （※出席講座や体験活動のみを行った場合や、学年全員で同じ活動を行った場合は、活動報告会を意見交流会等に変更して行う） ・ 取り組んできた活動について、資料や制作物を用いて発表する。 ・ これからの防災に対する自分たちの行動について考え、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が自主的・主体的に取り組んできたことを認めることで、今後も防災意識の継続や、地域社会の一員としての自覚をもち続けることができるようにする。 	1	

目 標	過去の災害に関する資料や、学区のハザードマップ等の情報を分析し、「自助」の視点で災害時に自らの命を守るために必要な知識や、適切な避難行動を取ることが出来る実践力を身に付けることができる。
学習活動	指導上の留意点
1 過去の災害について振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 映像資料や写真、その地の資料を提示することで、過去の災害についてどのようなことがあったか確認できるようにする。（阪神・淡路大震災、東日本大震災、平成30年7月豪雨等） ○ 過去の災害を振り返ることで、災害を他人事ではなく自分事として捉え、防災学習への意欲を高めることができるようにする。 <p>※被災経験のある生徒が在籍している等、配慮が必要な場合は、取り返り資料を精選したり、別の活動に切り替えたりする等、各学校の実態に合わせて柔軟な対応を行うようにする。</p>
2 地域の災害リスクを把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域における過去の災害の経緯や、倉敷市の各種ハザードマップの資料を提示することで、自分の住む地域の災害リスクについて考えられるようにする。 ○ ハザードマップの見方を確認し、詳しく分析することで、地域の災害リスクを把握するとともに、災害により身近な自分事として捉えることができるようにする。 <p>※雨水が多い学区については、河川の洪水氾濫だけでなく、雨水貯留下水からの内水氾濫も起こることもふまえるようにする。また、ハザードマップ上では洪水や土砂災害、崖崩れ、津波、内水氾濫等の災害リスクが図示された学区については、避難や避難所、その地域でも想定される災害や、ハザードマップの想定を超える災害が起こりうることも踏まえて指導するようにする。</p>
3 「自助」の視点で、自分の命を守るための備えや避難行動について考え、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「自助」の視点を確認することで、災害を自分事として捉え、「自分の命は自分で守る」という意識をもたせながら、実際の災害を想定して考え、話し合う。 ○ 「自助」の視点を確認することで、災害を自分事として捉え、「自分の命は自分で守る」という意識をもたせながら、実際の災害を想定して考え、話し合う。 <p>※想定する災害については、地域の災害リスクを考慮して設定するようにする。また、災害種によって事前の備えや避難行動が違い、異なる災害種を取り上げることで対応することができるため、可能な限り2つ以上取り上げることが望ましい。（例：洪水と地震・津波 等）</p>

得られた成果

- ・ 関係機関との連携や協力体制の確立ができた。
- ・ 生徒にどのような力を身に付けるか、そのためにどのような学習が必要か等、生徒の思考の流れや学校現場のニーズを考慮しながら作成することができた。
- ・ 担当者の知識やスキルアップにつなげることができた。

どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

課題・苦労・工夫

- ・ カリキュラム作成にあたり、専門的な知見や最新の情報などを取

	<p>り入れるためには、関係機関との連携が欠かせない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校現場のニーズを把握し、限られた時間数の学習の中でそれらをどのようにカリキュラムに組み入れるか、また、どのような活動を行うことで防災意識を継続・向上し、生徒の実践力を高めることができるか悩んだ。
--	--

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	倉敷市防災危機管理室
関係者の説明	倉敷市の防災部局
関係者の連絡先	086-426-3131

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	倉敷市の教職員
伝えたい内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災教育といっても何をどのように行えばよいのか、なかなか難しいところもあると思います。子どもたちに教える前に、まず自らの防災意識を高め、自分で学び、考え、体験していただき、その中で、子どもたちにどのような力を身に付けさせるのか、そのために、どのような学習が必要かを考えていくことが大切だと感じました。

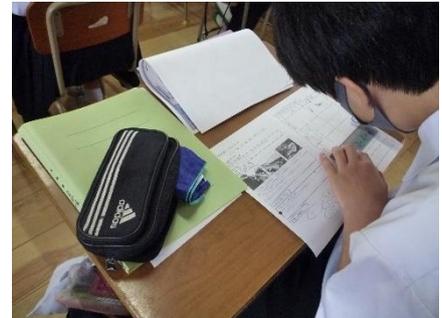
記入日	西暦 2022 年 1 月 12 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	倉敷市教育委員会
実践番号	2
タイトル	「自助」について
実践担当者のお名前	山下 洋平

実践にかかった金額	1 万円未満
実践の準備にかかった時間	約 1 か月
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 6 月 14 日 (月) 14 時 15 分～15 時 5 分
実践の所要時間	50 分
実践の運営側で動いた人の人数	2 人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約 300 人
実践を行った都道府県と市区町村	岡山県倉敷市
実践を行った具体的な場所	倉敷市立西中学校
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	倉敷市立西中学校教職員 倉敷市ハザードマップ

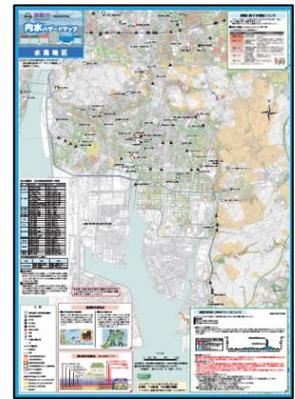
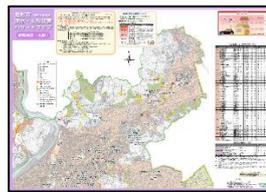
達成目標	過去の災害に関する資料や、学区のハザードマップ等の情報を分析し、「自助」の視点で災害時に自らの命を守るために必要な知識や、適切な避難行動を取ることができる実践力を身に付ける。	
どの力を身につけようと思いましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

1 映像資料や写真等から、過去の災害について振り返る。



2 倉敷市のハザードマップ等を活用して地域の災害リスクについて把握する。



3 「自助」の視点で、自分の命を守るための具体的な備えや避難行動について考え話し合う。

自分の命を自分で守るために（自助）		洪水	地震・津波
必要情報	日頃		
	発生直前		
避難行動	発生前		
	発生時		
	発生後		



	<p>4 本時の学習のまとめを行い、「自助」の重要性を伝える。</p>  <p>5 学習したことを持ち帰り、家族と共有するように促す。</p>						
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の防災に関する知識や実践力の向上につなげることができた。 ・ 生徒が防災について真剣に考える姿が見られたり、「学習したことを家族に伝えて、一緒に取り組みたい。」という発言が聞かれたり、防災意識の向上を図ることができた。 ・ 学習したことを持ち帰り、家庭への発信を行うことができた。 						
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="480 1227 834 1279">知識・技能</td> <td data-bbox="834 1227 1441 1279">大いに</td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1279 834 1339">思考力・判断力・表現力</td> <td data-bbox="834 1279 1441 1339">かなり</td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1339 834 1395">学びに向かう力・人間性</td> <td data-bbox="834 1339 1441 1395">大いに</td> </tr> </table>	知識・技能	大いに	思考力・判断力・表現力	かなり	学びに向かう力・人間性	大いに
知識・技能	大いに						
思考力・判断力・表現力	かなり						
学びに向かう力・人間性	大いに						
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の防災に関する知識や経験について個人差がある中で、どこからの内容を指導するか吟味する必要がある。 ・ 1時間の授業の中で、学習する内容について多く盛り込みすぎたので、内容の精選が必要である。 ・ 災害時にできる「自助」について考えたが、なかなかイメージがわからず、実際に災害を経験していないので多様な意見がでにくかった。 						

<p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p>	
<p>関係者の名前・団体名</p>	<p>倉敷市立西中学校</p>
<p>関係者の説明</p>	<p>防災学習モデル校</p>

関係者の連絡先	086-422-6030
---------	--------------

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	倉敷市の教職員・中学生・中学生の家族
伝えたい内容	<ul style="list-style-type: none">・ 自分の住む地域の災害リスクを把握することは、災害時に自分の命を守るためにとても大切です。普段から家族と共に、避難場所や避難経路について話し合ったり、実際に避難場所まで行ってみたりすることも「逃げ遅れ0」のために必要なことです。・ 自助の意識を高め、できることから始めてみてほしいと思います。

記入日	西暦 2022 年 1 月 13 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	倉敷市教育委員会
実践番号	3
タイトル	「共助」について
実践担当者のお名前	山下 洋平

実践にかかった金額	1 万円未満
実践の準備にかかった時間	約 1 か月
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 6 月 18 日 (金) 14 時 15 分～15 時 5 分
実践の所要時間	5 0 分
実践の運営側で動いた人の人数	2 人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約 3 0 0 人
実践を行った都道府県と市区町村	岡山県倉敷市
実践を行った具体的な場所	倉敷市立西中学校
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	倉敷市立西中学校教職員 倉敷市ハザードマップ

達成目標	これまでの学習や経験を生かし、「共助」の視点で、家庭や地域のために自分たちにできることを考える。	
どの力を身につけようとしていましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>1 「自助」の学習を振り返る。</p> <div data-bbox="550 250 826 622" data-label="Table"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自分の命を自分で守るために（自助例）</th> </tr> <tr> <th></th> <th>洪水</th> <th>地震・津波</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>必要情報</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 近所や町内区に居住する危険情報 山崩れや土砂崩れに注意する情報 火災警報、地震、津波発生時の緊急避難情報、避難場所 避難場所の位置関係 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 地震や津波に関する情報 地震発生時の緊急避難情報・避難場所 津波発生時の緊急避難情報 避難場所の位置関係 </td> </tr> <tr> <td>日頃</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 避難場所（避難所）を確認する 避難場所の位置関係を確認する 避難経路を確認する 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 避難場所（避難所）を確認する 避難場所の位置関係を確認する 避難経路を確認する 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する </td> </tr> <tr> <td>発生直前</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する </td> </tr> <tr> <td>発生時</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する </td> </tr> <tr> <td>発生後</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する </td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="882 250 1342 600" data-label="Image"> </div> <p>2 「共助」の視点で、自分たちにできることを考え話し合う。</p> <div data-bbox="719 707 1171 1010" data-label="Diagram"> </div> <p>3 話し合ったことから自分たちにできることを決定し計画を立てる。</p> <p>4 本時の学習のまとめを行い、「共助」の必要性を伝える。</p> <p>5 学習したことを持ち帰り、家族と共有するように促す。</p> </div>		自分の命を自分で守るために（自助例）			洪水	地震・津波	必要情報	<ul style="list-style-type: none"> 近所や町内区に居住する危険情報 山崩れや土砂崩れに注意する情報 火災警報、地震、津波発生時の緊急避難情報、避難場所 避難場所の位置関係 	<ul style="list-style-type: none"> 地震や津波に関する情報 地震発生時の緊急避難情報・避難場所 津波発生時の緊急避難情報 避難場所の位置関係 	日頃	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所（避難所）を確認する 避難場所の位置関係を確認する 避難経路を確認する 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所（避難所）を確認する 避難場所の位置関係を確認する 避難経路を確認する 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する 	発生直前	<ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する 	発生時	<ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する 	発生後	<ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する
自分の命を自分で守るために（自助例）																						
	洪水	地震・津波																				
必要情報	<ul style="list-style-type: none"> 近所や町内区に居住する危険情報 山崩れや土砂崩れに注意する情報 火災警報、地震、津波発生時の緊急避難情報、避難場所 避難場所の位置関係 	<ul style="list-style-type: none"> 地震や津波に関する情報 地震発生時の緊急避難情報・避難場所 津波発生時の緊急避難情報 避難場所の位置関係 																				
日頃	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所（避難所）を確認する 避難場所の位置関係を確認する 避難経路を確認する 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所（避難所）を確認する 避難場所の位置関係を確認する 避難経路を確認する 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する 																				
発生直前	<ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する 																				
発生時	<ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する 																				
発生後	<ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 避難用品を確認する 避難用品の位置関係を確認する 避難用品の位置関係を確認する 																				
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「共助」という視点で、家庭や地域のために自分たちにできることについて真剣に考え、防災意識の向上を図ることができた。 「誰かの役に立ちたい。」「地域の方々と日頃から関係づくりをしていきたい」。等、自分のことだけでなく、他者へも目を向けることができるようになり、地域参画への意識を高めることができた。 																					
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>																				
<p></p>	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>																				
<p></p>	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>																				
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校の立地や地域の特性等も踏まえて、地域への発信の仕方や地域との連携の方法等、どのように計画し実行していくかを考えるのが難しいと感じた。 																					

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	倉敷市立西中学校
関係者の説明	防災学習モデル校
関係者の連絡先	086-422-6030

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	倉敷市の教職員・中学生・中学生の家族
伝えたい内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族や地域での助け合いは、災害時に非常に重要になってきます。 <p>大人だけでなく、中学生にもできることはたくさんあると思います。それを考え実践することは、将来の地域の防災を担う人材を育成するとともに地域全体の防災力向上につながると感じます。もしもの時に助け合うためには、助け合える体制を整えておく必要があります。日頃からの地域でのコミュニケーションが大切であると感じます。</p>

記入日	西暦 2022 年 1 月 14 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	倉敷市教育委員会
実践番号	4
タイトル	被災地真備を巡る現地学習会
実践担当者のお名前	山下 洋平

実践にかかった金額	1 万円未満
実践の準備にかかった時間	約 3 か月
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 11 月 25 日 (木) 8 時 30 分～16 時 30 分
実践の所要時間	8 時間
実践の運営側で動いた人の人数	2 人
防災教育の対象者の属性	中学生・教職員
防災教育の対象者の人数	約 300 人
実践を行った都道府県と市区町村	岡山県倉敷市
実践を行った具体的な場所	小田川合流地点付け替え工事現場 井原線川辺宿駅 真備町呉妹地区堤防決壊地点 倉敷市立西中学校体育館
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	倉敷市立西中学校教職員 日の丸旅行(有)真備営業所 担当者 国土交通省中国地方整備局高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所 担当者 川辺復興プロジェクト あるく 代表者

達成目標	真備町を巡り、実際に被災した現場を訪れたり、河川の付け替え・堤防の工事に従事している方や復興に尽力されている方の話を聞いたりすることで、災害を自分事として捉えるとともに、「共助」への意識を高め、防災力の向上を図る。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

- 1 真備町での現地学習に向けて、これまでの学習を振り返り、事前の指導を行う。
- 2 小田川合流地点付け替え工事の現場を見学し、工事に従事している方から工事の概要や思いを聞く。



- 3 井原線川辺宿駅を訪れ、水害にあった当時の写真と比べながら被災した当時の状況を想像し、当時の被災者の気持ちに寄り添ったり、今後の自分の避難行動について考えたりする。



4 真備町呉妹地区の堤防決壊地点を見学し、工事に従事している方から工事の概要や思いを聞く。



5 真備町川辺地区で復興に向けて活動されている方の講演を聞き、これから自分たちにできる防災・減災について考える。



6 本時の学習を振り返り、事後の指導を行う。

得られた成果

- ・ 被災した真備町を訪れ、実際に当時の話を聞いたり、現場を見たりすることで、自分の住む市で起こったことをよりリアルに感じることができ、災害を自分事として捉えることができた。
- ・ 真備町の復興に努めている方の話を聞くことで、自分たちにもできることがあることに気付き、共助への意識を高めることができた。

どのくらい身につきましたか？

知識・技能	大いに
思考力・判断力・表現力	大いに
学びに向かう力・人間性	大いに

課題・苦勞・工夫

- ・ 学校だけでは現地での学習は難しく、旅行会社の協力が不可欠だった。学校と旅行会社等との綿密な打ち合わせや調整が必要だった。
- ・ 今回は、現地の見学がメインとなったが、フィールドワークや「共助」に関する体験活動等、現地で生徒が自主的に活動できる内容を組み込むことができれば、さらによいと感じた。

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	倉敷市立西中学校
関係者の説明	防災学習モデル校
関係者の連絡先	086-422-6030

関係者の名前・団体名	日の丸旅行（有）真備営業所
関係者の説明	真備町にある旅行会社
関係者の連絡先	086-698-1588

関係者の名前・団体名	国土交通省中国地方整備局高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所
関係者の説明	行政機関
関係者の連絡先	086-697-1020

関係者の名前・団体名	川辺復興プロジェクト あるく
関係者の説明	真備町川辺地区で復興に向けて活動している住民団体
関係者の連絡先	080-5752-0111

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	倉敷市の教職員・中学生・中学生の家族
伝えたい内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に被災地に足を運んでみないと分からないことはたくさんあると感じます。また、当時のことを知る方、復興に向けて活動している方から直接話を聞くことは、非常に価値があり、今後、災害を語り継いでいくという点においても重要なことだと思います。自分の目で見て、耳で聞いて、そこから自分がどのように行動するかを考えていくことが大切だと思います。

記入日	西暦 2022 年 1 月 17 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	倉敷市教育委員会
実践番号	5
タイトル	「災害時の食事」～防災食体験～
実践担当者のお名前	山下 洋平

実践にかかった金額	1 万円未満
実践の準備にかかった時間	約 2 か月
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 11 月 26 日 (金) 11 時 30 分～13 時 30 分
実践の所要時間	2 時間
実践の運営側で動いた人の人数	4 人
防災教育の対象者の属性	中学生・教職員
防災教育の対象者の人数	約 3 0 0 人
実践を行った都道府県と市区町村	岡山県倉敷市
実践を行った具体的な場所	倉敷市立西中学校 2 年生各教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	倉敷市立西中学校教職員 アルファ化米 倉敷市立倉敷中央学校給食共同調理場栄養士

達成目標	災害時の食生活に関心をもち、災害時の備えだけでなく、日常生活でも役立つ実践的な食の備えを考えるとともに、生きていく上での日常の食事の大切さを再認識し、日頃から食事への感謝の気持ちをもつことができる。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

- 1 これまでの学習を振り返り、「災害時の食事」という視点をもつ。
- 2 アルファ化米について知る。給食時に食べる準備をする。



- 3 災害時の食の課題について考える。

災害時の食の問題を考えよう

<食品の工場や店舗、農家では・・・>

- ・工場で生産ができない
- ・道路が寸断され、物流がストップする
- ・農作物が津波被害で収穫できない
- ・商品がなく、販売できない

<わたしたち消費者、避難者は・・・>

- ・食品が店頭からなくなり、手に入らない⇒パニックに
- ・電気やガスが止まり、調理できない
- ・水道が止まり、調理や飲み水に困る

震災を体験した人達に聞いた食の問題

食べ物が足りずお腹が空いた

野菜がほとんどなかった

災害時の食生活に役立つ効果的な手立てはないのか・・・

もっと魚や肉が食べたかった

赤ちゃんやお年寄り、アレルギーの人の対応がなかった

- 4 「非常食」と「災害食」の違いや、「ローリングストック法」について考える。

非常食	(災害食)
いざという時のために (使わずに)置いておく食品	災害時にも活用する (普段食べている)食品
(3 ~ 5)年と長期間	(常温)で(半年)程度以上 (野菜)は(常温)で日持ちがよければ可

(ローリングストック) 法:

(備蓄する) → (食べる) → (買い足す) を繰り返す方法

【 長 所 】

- ①賞味期限が近い食品から使い、新しい物を補充 → 賞味期限切れを防ぐ
- ②期限が極端に長なくてよい → 備える対象の食品が増える
- ③普段の備蓄を活用 → 慣れた味で安心感があり、栄養バランスも考えやすい

ローリングストック法とは

「日常的に食べて買い足す」

を繰り返して災害時の食に備える方法

- ◆農林水産省は各家庭に最低（ 3日間 ）、できれば（ 1週間 ）分の水と食料を備えるように提言 =（ 自助 ）
- ◆一緒に熱源も備える（ カセットコンロ、ボンベ、炭など ）
↳（ カセットボンベ ）はひとり1週間に約（ 6 ）本必要
- ◆水はひとり一日に（ 3 ）リットル必要
⇒ 飲み水、調理用
※湯せんや食品・食器を洗う水、手洗いや洗面などの水は別途必要
- ◆自助：共助：公助 = 7：2：1
（国立研究開発法人 防災科学技術研究所 林春男氏提唱）
⇒ 被害が大きいのほど公助（国や県、市）を頼れない

5 給食時間にアルファ化米を食べる。



6 本時の学習を振り返る。

得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて、非常用保存食を食べた生徒がほとんどで、災害時の食事について少しではあるが、体験することができた。 ・ 災害時の食について考えたことで、家庭で備蓄品を見直すきっかけになったり、ローリングストック法を実践したりするきっかけになり、家庭全体の防災力向上につなげることができた。 ・ 非常用保存食を食べたことで、日常の食事の大切さを再認識することができ、日頃の食事のありがたさを感じる事ができた。 	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回はアルファ化米のみを食べたが、自分たちで炊き出しを行ったり、主食だけでなく、副菜等も調理したりして体験することができればよいと感じた。 	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	倉敷市立西中学校
関係者の説明	防災学習モデル校
関係者の連絡先	086-422-6030

関係者の名前・団体名	倉敷市立倉敷中央学校給食共同調理場
関係者の説明	倉敷市の学校給食を作っている調理場
関係者の連絡先	086-436-7341

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	倉敷市の教職員・中学生・中学生の家族
伝えたい内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常用保存食を食べる等、災害時のことを想定して疑似体験しておくことは、実際に災害が起きた時の行動に役立つと思います。家庭で備蓄品について家族で話し合ったり、日頃からローリングストック法を取り入れた食事をしたり、日常の中で災害時の備えを行っていくことが大切だと感じます。

記入日	西暦 2022 年 1 月 18 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	倉敷市教育委員会
実践番号	6
タイトル	「東日本大震災に学ぶ会」 ～災害伝承 10 年プロジェクト～
実践担当者のお名前	山下 洋平

実践にかかった金額	1 万円未満
実践の準備にかかった時間	約 2 か月
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 12 月 22 日 (水) 8 時 40 分～10 時 40 分
実践の所要時間	2 時間
実践の運営側で動いた人の人数	2 人
防災教育の対象者の属性	中学生・教職員
防災教育の対象者の人数	約 3 0 0 人
実践を行った都道府県と市区町村	岡山県倉敷市
実践を行った具体的な場所	倉敷市立西中学校 2 年生各教室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	倉敷市立西中学校教職員 気仙沼市総務部危機管理課職員 Zoom 会議

達成目標	東日本大震災を経験された方の話を聞くことで、地震・津波の災害が起きたときの避難の際に気を付けることや避難所での生活、中学生の共助の活動について考え話し合う。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

1 オンラインで語り部の方の講話を聞く。



2



東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）

発生：2011年3月11日 14時46分頃
震源：三陸沖 北緯38°、東経142.9° 深さ24km
規模：マグニチュード 9.0
震度：・赤：震：6弱
・橙：震：5強
・赤：本吉町：5強

気仙沼市の被災状況



気仙沼市の被災状況



気仙沼市の被災状況 [旧倉津高校 4階まで浸水の跡]



気仙沼市の被災状況 [令和3年11月30日現在]

死者数：1,033人 行方不明者数：212人
震災関連死亡：109人 市民の約1.9%
被災家数：15,815棟（全棟約40.9%）
（58.8%：大規模半壊・半壊、37%：一部壊滅、4.7%：0.500棟等（軽微））
被災世帯数：9,500世帯（軽微）

	平成23年	平成24年	平成26年	令和3年
人口(A)	74,247	69,968	69,367	60,239
男(A)	35,650	33,979	33,191	29,179
女(A)	38,297	36,107	35,176	31,056
世帯数	26,601	25,555	25,885	26,222

気仙沼市の被災状況

浸水面積：18.65km²（全体の5.6%）
地盤沈下：およそ7.0cm（市全域）
4～5m程度に移動

事業所数：4,102事業所
うち被災事業所数（概数）3,314事業所 80.7%
従業員数：30,232人
うち被災従業員数（概数）25,236人 83.5%



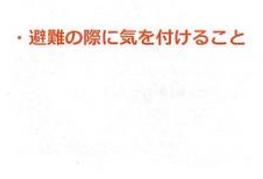
避難所の状況

市域内で市内に10.5万床の避難所あり（24時間一時滞在型）
→ 福祉施設、公民館等、高齢者が少ない避難所
→ 不燃材として、仕切り、敷ワット、避難スリッパ、シャワー……

廃止中学校（体育館のほかも数室使用）
最大収容：約1500名が予定
（食料提供まで済むのは約2,000人）
市立倉津中学校（収容数：約200,000人）/14,247
避難所中で最も収容数：約130,000人/440,000



避難の際に気を付けること



新たな避難情報



倉敷市 洪水・土砂災害ハザードマップ



避難所が被災した
避難所が被災した場合は、避難所としての機能を果たせなくなる可能性があります。被災した場合は、避難所としての機能を果たせなくなる可能性があります。

避難所が被災した
避難所が被災した場合は、避難所としての機能を果たせなくなる可能性があります。被災した場合は、避難所としての機能を果たせなくなる可能性があります。

災害時要支援者の支援を取り入れた防災活動



気仙沼市の被災状況（津波からの車での避難）



避難所生活、中学生の活動

避難所の状況



防災教育の取組（福上中学校総合防災訓練：住民も参加）



避難住民と一緒に体育館で行った「卒業式」



震災直後の教訓（子どもたちの取り組みが大人の力に）



新型コロナ等「感染防止」避難所対応

高ではこのように対応して、いざという時の感染防止対策を行います。

令和3年6月 鹿野中学校・鹿野地区復興協議会 避難所施設視察



令和3年6月 鹿野中学校・鹿野地区復興協議会 避難所施設視察



まとめとして 皆さんに伝えたいこと

家庭での対策の例

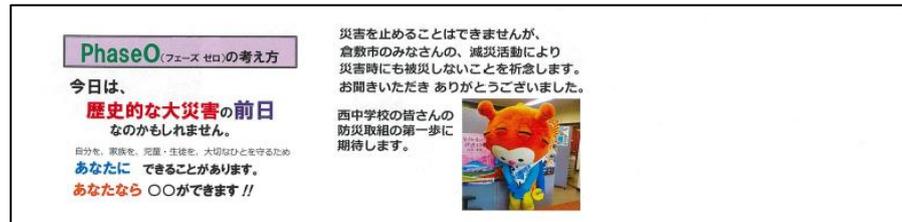


避難する時の用意はできていますか？

通常の避難物資に加え、マスク、体温計、除菌シート、除菌ジェルなどもあると安心ですね。

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館





(消防庁「災害伝承10年プロジェクト」資料より)

2 講話の内容の中で、疑問に思ったことやもっと聞きたいことに質問する。



3 本時の学習を振り返る。

得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 真備町での水害とは違う災害種について学ぶことで、地震や津波への備えや意識を高めることができた。 ・ 疑問に思ったことやもっと聞きたいことを直接、聞くことができ、生徒の防災知識の獲得や、防災意識の向上につなげることができた。 ・ 中学生にもできることや、今日からできる家庭での備えについて学ぶことができた。 	
--------	--	--

どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

課題・苦勞・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルスの影響もあり、Zoom 研修となったが、対面で行うことができればさらに学習が深まったのではないかと感じた。 ・ 他市の防災教育について知ることで、自分たちができる「共助」について考えるヒントになった。 ・ 家庭ですぐにできることも教えていただいたので、学校からも家庭への啓発に力を入れていけるとよい。 	
----------	---	--

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	倉敷市立西中学校
関係者の説明	防災学習モデル校
関係者の連絡先	086-422-6030

関係者の名前・団体名	気仙沼市総務部危機管理課
関係者の説明	災害伝承 10 年プロジェクトの語り部
関係者の連絡先	0226-22-3402

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	倉敷市の教職員・中学生・中学生の家族
伝えたい内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害はいつどこでどのような形で起こるか分からないので、様々な災害種についての避難行動や備えをしておくことが必要だと思います。他県や他市の防災教育や地域の取組について学ぶことは、自分たちの学びを深め、今後の自分の防災力を高めることにつながると感じます。様々な立場の方からいろいろな視点で話を聞くことは、生徒の視野を広げることにつながると思います。